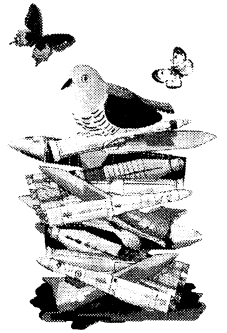


【詩 四編】



おれたたちの未来

金 龍 澤

かつて
六月の朝霧は
鳳仙花の葉片に留まって
美しい世界を映して見せた

波騒ぐ今日
おれたたちの愛は
おれたたちの夢は
どす黒い血に汚されて
思い出は黒い幕の中に
抹殺されてしまった

お前の怒りを！
お前の温もりを！
じだんだ踏む幾千万が
叫んでも叫んでも
腕うでいても腕うでいても
麻酔をかけられた
おれたたちの未来よ
俺たちの切ない罅ひびよ

刃

金 龍 澤

ここに一枚の舌があり
ここに不服従の舌があり
ここに支配を拒む飢えた者の武器があ
る

ここに憎まれた蛇が居り
ここに狙われた心臓があり
ここに黙ることを知らぬ舌がある

ここに支配の胴つばらを割く刃があり
たたかいつづけるペン先がある
暗夜を照らす炎がある

(以上は「金龍澤 他郷詩編」より)

サンサラーム

藤 本 治

ファルージャの戦火遁れし韓国人牧師
たち
祖国にあつて祖国喪いし三・一の悲し
みと怒りを憶いしならむ
濟州四・三のサンサラームを首相小泉
はテロリストと呼ぶか

〈われは知るテロリストの悲しき心〉
を殺すのか

ファルージャを救えの叫びはるかな耳
鳴りが濟州サンサラームを救えと木魂
しておる

術なしと思えどつのる望郷の念たなごころ
掌
より落つる滴の如し黙してわれは友の
目を視る

三千里寡黙のおっさんと呼びしもと学
生ら

私が今の沈黙を如何に聞くらむ

寝苦しい夜

藤 本 治

寝苦しい夜は眠ねなくてよいが
息苦しい世は生きなくてはならぬ
人として生きねばならぬ

(以上は「藤本治 酩酊詩編」より)

(四編ともに金龍澤・藤本治著『ぼろぼろ
倶楽部』影書房05年12月刊 所載)